

佐藤 博 議員

無所属クラブ

活気に満ちた安全な誇れる 弥富のまちづくりを目指して

人口バランスの取れた まちづくり対策を

問

時代が変わり、社会情勢や生活環境など、状況変化により政治は適切に対応する使命がある。その中の一つが人口問題であり、特に少子化対策である。

高齢化時代を迎えた一方、女性の就業率向上、晩婚化、核家族化など環境の変化により出生率は1.34まで低下。また未婚女性も多く、適齢全女性から算定すると1.21と半減している。

人口問題は国家の活力、繁栄、存続に影響する重大

で、前年と比べわずかに上昇したが、本市の過去の出生率は、22年が1.47、23年が1.48、24年が1.44である。

(2) 後期基本計画の中で、5年後の30年に4万6千人を想定しており、現在の人口プラス1千500人という計画であるが、5年後には本市も人口減少社会が進んでいくのではと危惧しており、大変厳しい数字であると認識している。

(3) 祝い金は、検討材料としたい。

早期結婚への取り組み対策として、社会福祉協議会の中に結婚相談所を設置し、民間企業に委託していきたい(P6参照)。

(4) 近隣自治体や本市でも過去に実施していたが、奨励金を出しても出生率が増えるということはないようなので、子育て支援に対する経済的な支援を充実させていきたい。

(5) 3世代の同居家族数の把握が大変難しく、今後しっかりと調査していきたい。

土地の有効活用による豊かな 活気に満ちたまちづくりを

問

本市は名古屋市内近郊に位置し、公共交通機関、名古屋港、西部臨海工業地帯がある一方、都市近郊型の農産物を供給でき、交通網の整備などにより多角的に土地の有効利用ができる地の利があることを踏まえ尋ねる。

(1) 市街化区域に隣接する土地の有効活用計画の進捗状況を尋ねる。

(2) 道路網の整備による土地活用が有効になる調査をしてみているかどうか。

例として善太川に橋を架け、十四山の有効な土地活用を検討してみているかどうか。

一つ一つ検討し、市の 活性化に努めていきたい

答 開発部長

(1) 車新田地区をまちづくり検討地区とし、今後土地利用転換に関する意向調査を行い、検討に入りたい。

答 市長
(2) 重要な問題であることは間違いないが、現在の財政状況の中では大変厳しい。

新市庁舎は浸水しない 場所に移転建設すべき

問

海抜ゼロメートル地帯という地形から水害対策を重点に考え、市庁舎の建設場所は、広く高台のある場所を検討してみているかどうか。

浸水対策を考えながら 庁舎建設を進めていく

答 市長

新庁舎の1階の床は、庁舎前の歩道面より1.2m高く設計している。また、1階の全ての出入り口部分に高さ90cmの防水壁、防潮板を計画し、設置が完了すると、庁舎前の歩道面より2.1mの高さまで浸水を防ぐことができる。しっかりとした浸水対策を考えながら、庁舎建設を進めていきたい。

結婚し、子どもを産み、育て やすい環境を作っていく

答 市長

(1) 25年人口動態統計の中で厚生労働省から国の出生率が発表され1.43ということ

- (1) 本市の出生率はどうか。
- (2) 総合計画、後期5カ年の基本計画の中で、人口問題をどう位置づけているか。
- (3) 28歳までに結婚した場合に結婚祝い金を出したらどうか。
- (4) 3人以上の子どもの奨励対策を実施してはどうか。
- (5) 3世代の同居家族の奨励対策を実施してはどうか。